

支出命令書

決裁日 27 年 9 月 7 日

市長 *****	副市長 *****	教育長 *****	部長 *****	次長 *****	課長・室長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 *****	係長 *****	担当者 	入力 	財政課合議 *****		

所 属		市議会事務局		起票日	平成27年9月7日	整理番号	5473-10
年 度		平成27年度	会 計	一般会計		予算区分	現年度予算
款	1	議 会 費			確 認 事 項		確 認
項	1	議 会 費			タイムカード(出勤簿)		
目	1	議 会 費			源 泉 徴 収		
細目	4	議会調査研究事業			被服貸与台帳記載		
節	19	負担金、補助及び交付金			通勤経路及び金額		
細節	45	政務活動費					
金 額		¥1,650			検収者 印		
控除額					支払方法		通常支払
債 権 者	登録No. 99999				支払区分		窓口払い , 1.現 金 2.小 切 手
	住 所				金融機関		
	名 称 市民トライネット代表者 清水 勝				支 店		
	職氏名				預金種別		
					口座番号		
					伺 残 額		¥721,290
摘 要	広報広聴費				支払予定日		平成27年9月18日
	議会傍聴よびかけ隊チラシ (8月分) 製作料				支 払 明 細 整 理 番 号		007
	分担金				請求書番号		

上記の金額を領収しました。
平成27年9月18日

泉大津市会計管理者 様

住所

名称

氏名 市民トライネット代表者 清水 勝

収入印紙

支出負担行為確認



支 払 済



2015000547301100

泉 大 津 市



27.9.-7

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

平成27年 9 月 7 日

泉大津市長
伊 藤 晴 彦 様
(泉大津市議会議長経由)

会 派 名 市民ネット
代表者名 清水 勝

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交 付 請 求 額	1, 6 5 0 円		
内 訳	議会傍聴よびかけ隊平成27年8月購入分チラシ製作料分担金		
支 払 先	(株) キングプリンターズ		
予 算 科 目	広報広聴費	交 付 残 額	721,290円
使 用 者 名	市民トライネット		

議会傍聴よびかけ隊
平成27年8月購入分チラシ製作経費分担計算書

株式会社キングプリンターズ
大阪府大阪市西淀川区千船2-10-21

A4チラシ 3,000枚 9,400円(消費税込)①

①÷議員数 9,400 ÷ 17 人 = 552.9412 円②

【分担額】

公明党 ②×3人=	1,650 円
日本共産党 ②×2人=	1,110 円
市民トライネット ②×3人=	1,650 円
市民クラブ ②×2人=	1,110 円
おづ ②×2人=	1,110 円
同志会 ②×2人=	1,110 円
立志会 ②×2人=	1,110 円
井阪 正信 ②×1人=	550 円
合計	9,400 円

領収書

領 収 証

No. A 08608

泉大津市議会 様

平成27年8月31日

金 額	百	千	円
¥	9	4	00

注文番号: 1083582

上記の金額正に領収いたしました

現金	
小切手	
手形	
相殺	

KINGprinters

株式会社 キングプリンターズ

〒555-0013 大阪府大阪市西淀川区千船2-10-21
TEL:06-6195-2365 FAX:06-6195-2369

取扱者

支出命令書

決裁日 27年 9月 10日

市長 *****	副市長 *****	教育長 *****	部長 *****	次長 *****	課長・室長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 *****	係長 *****	担当者 	入力 	財政課合議 *****		

所 属	市議会事務局		起票日	平成27年9月10日	整理番号	5473-11	
年 度	平成27年度	会 計	一般会計			予算区分	現年度予算
款	1	議 会 費	確 認 事 項			確 認	
項	1	議 会 費	タイムカード(出勤簿)				
目	1	議 会 費	源 泉 徴 収				
細目	4	議会調査研究事業	被服貸与台帳記載				
節	19	負担金、補助及び交付金	通勤経路及び金額				
細節	45	政務活動費					
金 額	¥7,686		検収者 				
控除額			支払方法	通常支払			
債 権 者	登録No. 99999		支払区分	窓口払い 1.現金 2.小切手			
	住 所		金融機関				
	名 称 市民トライネット代表者 清水 勝		支 店				
	職氏名		預金種別				
			口座番号				
			伺 残 額	¥713,604			
摘 要	事務費		支払予定日	平成27年9月28日			
	エプソン インクカートリッジ (IC6CL70L)		支払明細 整理番号	001			
	他		請求書番号				

上記の金額を領収しました。
平成27年9月28日
年 月 日

泉大津市会計管理者 様

住所

名称

氏名 市民トライネット代表者 清水 勝

収入印紙

支出負担行為確認

支 払 済



2015000547301119

泉大津市



27.9.10

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

平成27年 9月 10日

泉大津市長
伊 藤 晴 彦 様
(泉大津市議会議長経由)

会 派 名 市民、トライ、ネット

代表者名

伊 藤 晴 彦



政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交 付 請 求 額	7, 6 8 6 円		
内 訳	エプソン インクカートリッジ IC6CL70L 1 個 エプソン インクカートリッジ ICBK70L 2 個		
支 払 先	(株) ヤマダ電機		
予 算 科 目	事務費	交 付 残 額	710,604 円
使 用 者 名	市民トライネット		

領収書

管理No. 0337-326-0011663

伝票No: 0337-326-415560

発行日: 2015年09月07日

市民トラスト高橋 様

内訳
現金 ¥7,686 ¥7,686- (内消費税 ¥569)

但し イレフイV として。
上記の金額正に領収いたしました。
株式会社ヤマダ電機
群馬県高崎市栄町1-1

印紙税申告納
付につき高崎
税務署承認済



3199101015	IC6CL70L	70
17°ソニック	1:持帰	10
	外08	¥5,231
3199107017	ICBK70L	70
17°ソニック	1:持帰	10
	外08	¥1,886
	943 X	2

※印刷面を内側に折って保管願います。

支出命令書

決裁日 27 年 9 月 25 日

市長 *****	副市長 *****	教育長 *****	部長 *****	次長 *****	課長・室長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 *****	係長 *****	担当者 *****	入力 	財政課合議 *****		

所 属	市議会事務局	起票日	平成27年9月25日	整理番号	5473-12
年 度	平成27年度	会 計	一般会計	予算区分	現年度予算
款	1	議 会 費		確 認 事 項	確 認
項	1	議 会 費		タイムカード(出勤簿)	
目	1	議 会 費		源 泉 徴 収	
細目	4	議会調査研究事業		被服貸与台帳記載	
節	19	負担金、補助及び交付金		通勤経路及び金額	
細節	45	政務活動費			
金 額	¥10,000			検収者	印
控除額				支払方法	通常支払
債 権 者	登録No. 99999			支払区分	窓口払い 1.現金 2.小切手
	住 所			金融機関	
	名 称 市民トライネット代表者 清水 勝			支 店	
	職氏名			預金種別	
				口座番号	
				伺 残 額	¥703,604
摘 要	研究研修費			支払予定日	平成27年10月6日
	10/7~10/9 第77回全国都市問題会議参加費			支払明細 整理番号	001
	担金(野田議員)			請求書番号	

上記の金額を領収しました。
平成27年10月6日
年 月 日

泉大津市会計管理者 様

住所

名称

氏名 市民トライネット代表者 清水 勝

収入印紙

支出負担行為確認



支 払 済



2015000547301128

泉大津市

27.9.25

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

平成27年 9 月 25 日

泉大津市長
伊 藤 晴 彦 様
(泉大津市議会議長経由)

会 派 名 市民、トライ、ネット

代表者名 清水 勝 

政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり
政務活動費を請求します。

記

交 付 請 求 額	10,000円		
内 訳	第77回全国都市問題会議参加負担金		
支 払 先	東武トップツアーズ株式会社		
予 算 科 目	研究研修費	交 付 残 額	703,604円
使 用 者 名	野田 悦子		

会議参加費領収証

野田 悦子 様

金 10,000 円

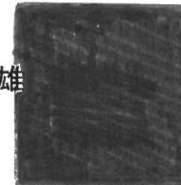
但、「第77回全国都市問題会議」に係る会議参加費として
上記正に領収いたしました。

平成27年10月7日

第77回全国都市問題会議実行委員会

会 長 加 藤 久 雄

No. 0605



支出命令書

決裁日 27 年 9 月 25 日

市長 *****	副市長 *****	教育長 *****	部長 *****	次長 *****	課長・室長 	課長補佐 	係長 	担当者 
会計管理者 	会計課長 	課長補佐 *****	係長 *****	担当者 *****	入力 	財政課合議 *****		

所 属	市議会事務局		起票日	平成27年9月25日		整理番号	5473-13	
年 度	平成27年度	会 計	一般会計				予算区分	現年度予算
款	1	議 会 費				確 認 事 項	確 認	
項	1	議 会 費				タイムカード(出勤簿)		
目	1	議 会 費				源 泉 徴 収		
細目	4	議会調査研究事業				被服貸与台帳記載		
節	19	負担金、補助及び交付金				通勤経路及び金額		
細節	45	政務活動費						
金 額	¥70,520					検収者	印	
控除額						支払方法	通常支払	
債 権 者	登録No. 99999					支払区分	窓口払い 1.現金 2.小切手	
	住 所					金融機関		
	名 称 市民トライネット代表者 清水 勝					支 店		
	職氏名					預金種別		
						口座番号		
						伺 残 額	¥633,084	
摘 要	旅費					支払予定日	平成27年10月6日	
	10/7~10/9 第77回全国都市問題会議参加旅					支払明細 整理番号	001	
	費(野田議員)					請求書番号		

上記の金額を領収しました。
平成27年10月6日
年 月 日

泉大津市会計管理者 様

住所

名称

氏名 市民トライネット代表者 清水 勝

収入印紙

支出負担行為確認



支 払 済



2015000547301137

泉大津市



27.9.25

供	議長	副議長	局長	次長	次長 補佐	議事調 査係長	庶務 係長	主査
覧								

別記様式第5号（第4条関係）

政務活動費交付請求書

平成27年 9月 25日

泉大津市長
伊 藤 晴 彦 様
(泉大津市議会議長経由)

会 派 名 市民、トラ、ネット
代 表 者 名 清水 勝



政務活動費交付請求書

泉大津市議会政務活動費の交付に関する規則第4条の規定により、下記のとおり政務活動費を請求します。

記

交 付 請 求 額	70,520円		
内 訳	10/7~10/9 長野市 第77回全国都市問題会議参加旅費		
支 払 先	野田 悦子		
予 算 科 目	旅費	交 付 残 額	133,084円
使 用 者 名	野田 悦子		

平成27年度

出張申請書

(出張)

会派名	市民トライネット		氏名	野田 悦子				
出発・帰庁年月日		出発 27年10月7日		帰庁 27年10月9日				
出張先(順路) 長野市 ホクト文化ホール(長野市若里1-1-3)								
目的及び用件 第77回全国都市問題会議に出席								
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津 (南海本線) 難波	km	円 440	円	円	円	円	円	円 440
" (地下鉄御堂筋線) 新大阪		280						280
" (JR北陸本線) 金沢	267.6 -495.7	7,880	特急料金 1,450					9,330
" (北陸新幹線) 長野	228.1		特急料金 (かがやき) 4,960		2泊 30,000	3日 10,500		45,460
" 復路		8,600	特急料金 6,410					15,010
							計	70,520

主管課用

平成27年度

領収書兼旅費明細書

(出張)

会派名	市民トライネット		氏名	野田 悦子				
出発・帰庁年月日		出発 27年10月7日		帰庁 27年10月9日				
出張先(順路) 長野市 ホクト文化ホール(長野市若里1-1-3)								
目的及び用件 第77回全国都市問題会議に出席								
区間	距離	運賃	料金	車賃	宿泊料	日当	食卓料	計
泉大津 (南海本線) 難波	km	円 440	円	円	円	円	円	円
" (地下鉄御堂筋線) 新大阪		280						280
" (JR北陸本線) 金沢	267.6 -495.7	7,880	特急料金 1,450					9,330
" (北陸新幹線) 長野	228.1		特急料金 (かがやき) 4,960		2泊 30,000	3日 10,500		45,460
" 復路		8,600	特急料金 6,410					15,010
							計	70,520
右の金額領収いたしました。				金額	¥ 70,520			
平成 年 月 日				職名	市民トライネット			
泉大津市会計管理者 殿				氏名	野田 悦子			



■ 供 覧

受 発 記 号 ・ 番 号				収受年月日		平成27年10月27日	
差 出 名		市民トライネット 野田 悦子					
あ て 名		泉大津市議会議長				提出期限	
収 受 文 書 の 記 号				収受文書の日付		平成27年11月24日	
件 名		報告書					
議長		副議長		事務局長		次長	
							
次長補佐		議事調査係長		庶務係長		主査	
							
合		議					
処 理 上 の 意 見 及 び 注 意 事 項							
日 時：平成27年10月7日（水）～10月9日（金） 出張先：長野市ホクト文化ホール 目 的：第77回全国都市問題会議に参加							

報 告 書

平成27年10月27日

泉大津市議会議長 殿

市民トライネット
会派代表者 : 清水 勝
出張者 : 野田悦子

下記により出張したので、報告致します。

記

1. 日 時 : 平成27年10月7日(水)～9日(金)
2. 出張先 : 長野県長野市 ホクト文化ホール
3. 目 的 : 第77回全国都市問題会議への出席

4. 報告内容

まず、毎年行われている全国都市問題会議への参加でしたが、取り上げられている課題が本市にとってどの様に活かされるかという視点で臨みました。

長野県での8日朝からの会議の為、前日の移動だった事で当日は集中出来ました。

長野県は北陸新幹線が開通し、東京への利便性が増した事を前面に出した駅構内でありました。構内のあちこちに新しい技術が取り入れられ明るく広々としていた印象です。

この様な現状から、福井県武生市など泉州、泉大津市と繋がりのある繊維分野など、近畿に向いていた産業が今後は関東へシフトしていくのではと危惧します。大阪の産業が活気を失わない取り組みを近畿地方が一体となり協同で取り組む必要を強く感じました。

会議への参加申し込み者が2242名との紹介であったが、会場の大ホールの客席数は全2173席であるところから不参加者が居たとしても万席であった事がわかる。対応としてサブ会場に中ホールも設けられていたが、講演は会場に参加するから講師陣の熱が伝わるのではと思い、良い講演だっただけで議会議務局のご配慮に感謝した。



— 会議日程 1 日目 —

- ①開会式
- ②基調講演
- ③主報告
- ④一般報告

②基調講演 : <世界の山々をめざして> 田部井淳子氏

田部井氏は女性登山家として様々な世界最高峰の山へ登頂されてきた経験から現在の活動を全国で講演、執筆活動と精力的にこなしてらっしゃる。

福島県生まれの今年 9 月で 76 歳になられたとおっしゃっていたが、とても若々しく意欲に富んだ方である。

以上の経験から東日本大震災においての災害地の福島県生まれであり、実際にご自身が行き組まれた支援について話された。被災地から離れた土地で暮らしていると、支援に対して資金・物資を送る以外になかなか行組めないことや、刻々と変わりゆく需要への対応と支援が合致しないなども良く聞く。震災直後の、まだまだ不自由ではあるけれど、何とか生活物資だけは足りるようになった時から始まった田部井氏の行組みをお聞きし、人が人として生きる為の支援とは何かを考えさせられた。

— 行組み —

● 生きている事 ≠ 生きる事

人はただ生きているだけでは生きていけない

心と身体両面からのフォローが必要

心の健康 = 喜び → 生き甲斐

● 震災後 2 ヶ月から山歩きの仲間とハイキングの計画

6 月に実行

その後、登山未経験の高校生を対象として富士登山・シニア対象のハイキングと温泉など、累計 1000 名を目標

この行動の素になっているのはご自身の経験からで、76 年の人生に於いて、これからはもっと濃い時間を過ごすとおペラを習い始め素人集団ながらコンサートも開かるなど、さまざまな事に精力的に挑戦されている。挑戦する事を楽しみ、喜び、生きがいになり、目標になる。目標があるから一生懸命になり、一生懸命が人に伝わり、広がるのだと。

この講演自体もご本人がとても楽しんで生き活きと話されているパワーがこちらにも伝わってきて、進むにつれ更に惹きこまれていった。

③主報告 : <生き生き「ながの」元気な長野> 長野市長加藤久雄氏

加藤市長は、民間企業の社長、会長、商工会議所の会頭などを務められた方だそう。

民間企業出身というだけあって報告に留まらないパワフルな話しであった。なかでも、『一年で出来ないものは二年でも出来ない。結果と成果を出す。』という言葉を実践されているとおっしゃったのが印象的であった。

平成の合併が過疎化を進めたと分析されながら長野の良さにを前面に出した街づくりを進めてるとのことである。

善光寺を中心とした大縁日を実行

集客率アップ

御開帳イベントに住民を巻き込む

市街地の住民の交流に取り組む

山里ビジネス

鳥獣（猪、鹿、熊）被害を逆手にとって猪鹿対策課を設置

- 捕って食べる、肉は売る。

加工食創生

少し荒っぽいとも取れる語り口調ではあったが、市も儲からないとやりたい事も出来ないという事だろう。最後に力強く「come back to 長野」とおっしゃられていたのが耳に残っている。

④一般報告：＜都市の魅力づくりと交流・定住＞ 立教大学講師清水慎一氏

清水氏は日本版DMO（観光地域づくりプラットフォーム）推進機構の会長でもあり観光はその土地土地の暮らしぶりを観る事であり観光地づくりではなく街全体、町ぐるみの観光地域づくりが肝心であり、そのためには観光の現状を把握することが大事であるとおっしゃっていた。泉大津市を観光地域とはなかなか捉えられないところもあるが、通過地ではなく近隣の『行きたい街』にする術を取り入れたいものである。

例として挙げられた徳島県三好市祖谷では「千年のかくれんぼ秘境奥祖谷ツアー」として古民家の空き家を限定宿泊施設にし、素泊まりで二万円から三万円の設定。海外へ先にアプローチする、反応がある、地域の意識の変化、県へ、国へと波及して行った。なかでも「地域のお年寄りの悩みが観光客の悩みでもある」だから「観光という切り口で問題点を改善して行くと便利で面白くてまた来たくなる街になる」という一節が響いた。

問題は自治体の壁、業種の壁、官民の壁を取り払い取り組む事が必要であり、それぞれが街の顔、街の在り方を考え行動するのではなく一つの方向、一つの計画から訪れた人すべてが一つでわかるHPやパンフレットなどのツールの作成までを考慮する必要がある。

新たなものを作りだすのではなく、今あるものを活かす、商店街の再生が大切だとお聞きし危機的な状況の中央商店街が頭を過ぎった。秋のサンマ祭りは盛況だが商店街自体の店舗数の減少など問題は山積している。どう壁を取り除いて何に取り組んでいくか早急に進める必要のある課題である。

④一般報告：＜地域資源を活かした連携によるまちづくり＞ 豊田市長太田稔彦氏 豊田市について真っ先に浮かぶのはトヨタではないだろうか。そのトヨタを抱える豊田市

の地域資源と聞いて真っ先に「いいなあ」と思ってしまった。しかし、平成の合併で都市部と市面積918km²の内、森林が7割を占める農山村も併せ持つ都市であることによる新たな問題を地域自治で提案し連携から解決を生み出しているという。

都市部では成長期に多くの入植者があったため、今後一挙に高齢化が進むことが懸念材料であった。そのままでは行政負担の増加だけが大きくなる可能性があったところ、シニア世代は地域から市を支える担い手となるという逆転の発想で「地域自治システム・おいでんさんそんシステム」として各々の地域が出来る限り自立して、双方のニーズを市が「おいでんさんそんセンター」で掘り起こし交流や関係作りをコーディネートし連携を取ることで実現している。

地域で自立と聞くとそっちはそっち、こっちはこっちと考えて農山村部は大変なままではないかと考えていたが、都市部のシニア世代の地域デビュー出来ずに定年を迎え生き甲斐を無くしていた人たちが、農山村部の人手不足を補って交流が出来る。WIN・WINの方法は学ぶところが大きい。面積、人口も違い市内がほぼ横並びの泉大津市においての地域自立・地域連携の在り方を考慮し取り入れる方法を考えていきたい。

④一般報告：＜一五輪一会＞ セーラ・マリ・カミングス氏

カミングス氏は学生の時にフラットな頭、フラットな気持ちで日本を知りたいと来日。富士山マラソン登山や着物コンテストなどを体験。海外から見た日本は沢山の良いものがあるがそれを無くさず継承する気持ちが大切だと言う。自身も日本酒の利酒師であり木桶文化の継承を目的としたNPO法人桶仕込み保存会の会長でもある。

いくつもの言葉に響くものがあった。

- 良いと思ったことはやってみる。

意志の強さは人を巻き込んでいく

- 仕方がない → 仕方ある（考え方を変える）

出来ない → やりたくない気持ちを変える

- 「水から（自ら）変わることが必要」

昔の人が森林を守り、水源も守ってきた。一度汚してしまった河川を元に戻すのは大変でも同じ年数をかけてでも戻すことはできる。

- ルールは例外のためにある

- 小さなイベント

小さな笑顔

小さなボランティア

誰でも

いつでも

何度でも参加できる

※人を巻き込んでいくちょっとした工夫

- イベントはイベントの為ではなく、次のステップへの準備

- 地域の職人の技を守り伝承・継承していく為に賞を与えるなど力を注ぐことが大切

等々

日本語の同音で意味の違う言葉に強く興味を持たれたのか話しの中に沢山出てきて、話し口調も楽しく元気と意志の強さが伝わってくる方でした。

まわりを巻き込んで、参加した人が小さなボランティアで大きなイベントに繋がるよう考えていくことが長く、さらなるイベント・交流に繋がっていく事を改めて認識させて頂いた。

初日を終え、これからの街づくりは最初はたった一人でも、楽しんでやりがいと意志の強さを持って周りの人を巻き込んでいく。それが多くの講師の方々がおっしゃっていた成功への道ではないでしょうか。

— 会議日程 2日目 —

①パネルディスカッション

②閉会式

①パネルディスカッション : <都市の魅力づくりと交流・定住>

コーディネーター	一橋大学教授	辻 琢也氏
パネリスト	両備グループ CEO	小嶋 光信氏
	地域再生プランナー	久繁哲之介氏
	信州大学教授	橋本 純一氏
	岡山県真庭市長	太田 昇氏
	愛媛県今治市長	菅 良二氏

辻氏からは都市の魅力≡住環境の魅力であり1992年にピークを迎えた人口は2012年に1972年頃と同じになっている。DID値2倍をいかに維持していくか。

小嶋氏からは「日本再生と地方創生の7つの処方箋」という視点でアメリカやヨーロッパが公設公から公民へ移行している現状から公設公営民間委託の新しい形を地域バスで作り上げた。介護保険適用者のみならず国民が元気に自立して生活できる健康思想の改革を高齡化社会ではなく長寿社会と捉え社会に貢献して参画出来る優等生高齡者を・家庭教育や学校教育の見直しこそ急務であるとおっしゃられていた。

一番は問題点ばかりをパッチワークのように対処していても無理であり、活性化と再生で地方自治＝地方創生であると考え個々の自治体で税収を増やす努力が必要であるとの言葉に、あらゆる垣根を縦横斜め内外で取り払っていく舵取りが何よりも大事であると感じました。

久繁氏は「トレードオフ（相反する関係）で考える」コンパクトシティは人口減少を加速するとインパクトのある副題が付いていました。切り口も辛口で二者択一も必要で二兎追うものは一兎を得ずの例えのごとく官のスローガン→有識者→利害関係→縦割り行政とキレイ事の総論ばかりでは上手くいかない。民間が上手くいっているのは人や取り組みに賛同す

る人たちが共感して人物・情報・資金が集まるからである。また、官民も難しいがもっと困難を極めるのは官官であるとの見解でした。少子化に歯止めをかけるのは出生率であり、その成功例などもデータで示されました。

橋本氏は「Jクラブと都市活性化」について、地域を巻き込むと無名の選手が成長しクラブアップして世界へと通じていく様を自身の夢へと繋がっていき活性化が期待できると松本市を例に公共財としてのクラブチームの存在についてお聞きしました。

太田氏は「里山資本主義・真庭の挑戦」として短期の市民参加で高校生も一緒に環境と農業についての取り組みをお聞きしました。林業の在り方、日本の優秀な材木を余すところなくつかう木材ブロック（CLT）を建設基材として三階建てマンションの建設、バイオマス発電の稼働など新たな視点で取り組みをされている例の他にも多彩な地域づくりを紹介して頂きました。

菅氏は「多彩な連携による都市の魅力づくり」を日本丸乗船体験など海洋事業の普及、今治タオルの業界を世界展開して復活、しまなみ街道サイクルロードをサイクリストの聖地として充実・世界大会の開催、村上水軍の娘で注目を浴びた文化ミュージアムと人を呼び込む仕掛けを地域で取り組む地域創生・連携について紹介して頂きました。

パネルディスカッションで発表の後、質疑応答の時間があるはずでしたがパネリストの方々の力の入った発表でなくなったのは残念でした。

二日間を通して、様々な取り組み、街づくりの在り方、構築の問題点などを吸収し今後の泉大津市へどうマッチングさせていくかを考える一助になりました。

会場のロビーでは災害対応型カップ式自動販売機（粉ミルクの調乳やフリーズドライ食品の調理に対応）の案内、屋外では長野県の一押しがお土産ブースとして開設され魅力ある会議、そして充実した内容であったことをご報告致します。

以上